
デュアル・シュール

西崎想

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デュアル・シユール

【NZコード】

N4377Z

【作者名】

西崎想

【あらすじ】

ニューヨークに一人の男が占い師をしていた。

男は、何かを待っていた。

そして、その待っていた、女が彼の前に現れた。

世界崩壊の序曲。それを止めそうとする二人の戦いが始まる。

プロローグ -崩壊のカウントダウン-

西暦2091.1.1ユーローク。

繁華街、裏通り。

ここは、浮浪者、酔っ払い、不良、など、気持ちの宣しくない、者たちがはびこっていた。

その、もう一つ下の、階段を降りたところにある、広場。その一角に、ポツンと、テーブルに布をかけてあるだけの、簡単な店構えに、一人の男がいた。

彼は、どこか暗い表情の中に、一筋の光明が見える。

その男は、誰かを待っていた。

誰？

それは、その男本人にだつてわからない。
男は、長い布……ローブを身にまとっていた。

きやつきやつ

何人かの、女の子たち、高校生が団体で通りかかった。

「ねえねえ」

その中の背の低い女の子が、ローブの男を指さして、

「あれ、占い師ー？」

「えー？なんかこわあ～い

「流行つてないんじやない？」

「いこいこ」

きやつきやつ

そう言いながら、女子高生たちは去つて行つた。
男が待つてゐるのは、彼女たちではないようだ。

「今日も、またダメか？」

そう、男は湿つぽく思つていた。

その時だつた。

カツカツ……

ヒールの音を響かしながら、一人の女が歩いてきた。
その女は、この通りには、おおよそ似つかわしくない、綺麗な姿
をしていた。

女は、男へ近づいて行く。

そして、前まで来ると、歩みを止めた。

「貴方、占い師？」

「……ええ」

男は、ぶつきらぼうこ、それだけ言つた。
「私のこと……占つてくださいさる？」

「……それが仕事ですから」

じつと、手相を見る、男。

「この人、変わつてゐるな……」

そう思いながらも、

「恋愛運が良いですね」

ほとんどでたらめに、男はそう言つた。

「まあ、ほんと?」

その割に、女は、良い反応をした。

そして、

「その、水晶玉。使わないの?」

そう言つた。

男は驚いて、女を見た。

「ねえ、どう?」

その女の角度からして、それは見えない角度にあつたのだ。
-占つてみるか……。

そう思い、男は水晶玉を机に置いた。

……!?

「う……」

男は、そのイメージに眉をしかめた。

「ねえ、どう?」

「……」

男は一息ついて、

「世界は、崩壊に向かいます」

「へえ……? 怖いわね」

「私は貴方を、待つていました」

「あら、ほんと?」

女は少し笑みを浮かべた。

「私と……一緒に……来てくださいます?」

「あら? ナンパ?」

男は下を向いた。

そして、商売道具をつまみ出した。

「いかがです？」

その女は、男にやうごねると、

にやあ～と、笑い、

「いいわよ」

そう、言った。

クラフトとジーン

「俺はクラフト。君は？」

私? うん

何か躊躇している女 少し若えて

「いいわ、私はジーン」「ジーンか、よい名だ」

もうクラフトがいいと、

「本当? そんなこと言つてくれたの、貴男が初めてよ
クラフトは、そういうわれると、下を向いた。

「貴男、もつ、その布、取つちゃいなさい」
ジーンは、わづこづや畠や、クリフトのローブに手をかけた。

せれん！

11

「あらあ、結構いい男じゃないの？」

クラフトは、口一九の下の縁をあらねられた。

服は、コレコレのジーンズと、Tシャツ。髪は少し伸びていて、180?くらい。ありそつば髪と頬のあざ結構いい男だ。

「なんか、良い服でも来たら、もつといい男になりそうね」

そんなジーンは、プロンドの髪とスレンダーな体をしていて、その体型をフルに生かした、ピチッとした服を着ていた。

「そうね、私が買つてあげる」

「ううう」と、ジーンは、クラフトの腕をつかんで、町へ繰り出した。

「うううなんて、ううう。」

そう言つて、ジーンが立ち止ったのは、ブランド品が並んでいる、見るからに高そうな店。

「入るわよ」
「ううう」と、ジーンは、店の中へ、

「いらっしゃこまか」

店内は明るく、店員は、丁寧に斜め45度に身体を曲げてお辞儀をしていた。

「貴男のお好みは？」

「……俺は」

そういうと、クラフトは考え込んでしまつた。

「あら、貴男優柔不斷？いやあねえ」

ジーンはそんなクラフトを見ると、自分で、パパッと服を選んだ。

「ううう～こんなのは」

「そうだな……」

「じゃあ、これは？」

「…… もう少し、かつてここのが」

ジーンはあーっと息を吐くと、

「ああんた、優柔不断のくせに、選り好みするの? もう少い」

「……いや、もういつもわけじやあ」

そう言われると、クラフトは口をつむんでしまった。

「あら~あ、『あなたが』?」

「いや……君が選んだのでいいよ」

「そお!」

じゃあ、とこいつとで、ジーンが服を選んだ。

「『んなのは?』……と、良いみたいね」

クラフトの表情を見て、ジーンがもう言つと、

「じゃあ、これ、カードで」

はい、と素早くカードを店員に渡した。

革の上下にブーツ、クラフトは、満更でもないようだ。
それを見て、ジーンはカードを出した。

外に出た一人。

ジーンは、駐車場に来たところで、止まつた。

「や、いじよ」

すると、クラフトは、ジーンに抱き着いた。

ドキッとするジーン。

「ク、クラフト?」

「君は、何を知っているんだ?」

「え?」

「なぜ、俺の所に来た!」

語氣を荒げるクラフト。それを聞いたジーンは戸惑つた。

「な……なに怒つてんのよ」

「君と会つた時から、ずっとつけられている

「え……!?」

辺りを見ようとするジーン。

「見るな!」

小さい声でしかし鋭く、クラフトは言つた。

「君は、銃を持っているか?」

「え、ええ」

「走れ!」

その声に、ジーンは走つた。

ダーン！

銃声が響く。

「きやああ！」

そう叫びながらも、ジーンは自分の車にたどり着いた。

「よしつ！」

クラフトは、銃で応戦しながら、ジーンの所へ、

「ちょ、ちょっと！ なあによおう！」

「君の事を歓迎しているんだろう！」

そう言つて、クラフトは、ジーンに、

「車のキイだ、開けるんだ！」

「え、ええ！」

ピー

カチッ……

急いで入る二人。

「はやく！」

その車は、すごい速度で、走り出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4377z/>

デュアル・シュール

2011年12月16日18時56分発行